

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp



41



坪島 あおい

(富山市大泉北町)

坪島獣医科病院副院長

年末年始やゴールデンウィークなどの長期休暇の後、必ずお目にかかる症例があります。「下痢や嘔吐が続く」「おしっこ回数が多く、色もおかしい」。いずれも預け先のペットホテルから帰宅した犬猫に現れた症状です。

来院された飼い主さんには、犬や猫は移動せず、信頼できる方に自宅でお世話してもらうのが一番良いですよ、とお話します。お世話する方との相性はもちろんありますが、飼育環境の変化が小さいことがペットにとって大切です。

ただ、どうしてもそれがかなわ

犬猫を預ける

環境の変化最小に

ない場合があります。そこで環境変化というストレスを最小にするポイントを考えてみたいと思います。

ペットホテルは冷暖房完備のケ

ージに個別で入るのが一般的です。ケージに入る習慣がないと、まずそれが大きなストレスになります。小さい頃から慣れさせましょう。



ペットホテルに預ける場合、自宅で使っているベッドを持参する

ホテル側が求める求めないに関わらず、伝染病のワクチン接種は必須です。ウイルス性の伝染病には、重篤な消化器症状を引き起こすものがあります。犬のジステンパーやパルボウイルス感染、猫のパルボウイルス感染は命を脅かす危険があります。

細菌性の消化器病は食事が一因となります。1食分ずつ清潔に分包し、冷蔵・冷凍が必要ならホテル側にお願ひしてください。食事の内容にも配慮が求められます。嗜好性に主眼をおいて高脂肪のおやつを預けるのは禁物です。低脂

肪で高繊維の食事は消化器への負担が小さく、預ける前に慣らしておけば症状が出ることは少ないでしょう。食事の選択はかかりつけの獣医師にご相談ください。

トイレの問題は最も重要です。排便が数日なくても心配はありませんが、排尿は毎日あることが大前提です。排尿を我慢しすぎてぼうこう炎を発症することがありますし、2日間排尿がないと健康が大きく損なわれます。排尿の場所やタイミングをしっかりと伝え、室内トイレを使用している場合は持参した方がよいでしょう。

さまざまな配慮しても体調を崩す場合があります。特に高齢のペットには注意が必要です。帰宅して数日様子を見ていたため、脱水や炎症が重症化し、入院を余儀なくされる例もあります。異常が見られたら一日も早く治療を受け、健康な日常生活を取り戻しましょう。